

# ものづくり人材確保が鍵

## 西部の事業者 知事と意見交換

中区



石川知事（中央奥）と西部地域の事業者らが意見交換した「遠州はつらつトーク」＝浜松市中区の県浜松総合庁舎

県は二十九日、「ビジネスチャンスの開拓と新たな挑戦」をテーマに石川嘉延知事と西部地域の各分野の事業者らが意見交換する「遠州はつらつトーク」を浜松市中区の県浜松総合庁舎で開いた。新技術や商品開発、IT技術を活用したビジネスや「地産地消」などに取り組む各種業界の代表八人が参加し、石川知事と人材の確保など共通する課題について活発に意見交換した。

（同市北区）の竹塚直久「ソフト開発にも取り組む社長は「携帯電話市場で「んでいる」と紹介。暗闇当社の最新技術は65%のでも見える高解像度のCシェアがある。千葉大とCDカメラを開発したノブオ電子（同市西区）の共同研究で子供からお年寄りまでが簡単に読め」中村喜子取締役は「大手

企業に人材が集中する中で、研究事業を進めるための人材確保が一番の課題」と述べ、人材育成や事業継承の難しさなどを指摘した。

一方、菓子類などの販売で業績を上げている「花のようなケーキ」（同市北区）の小林恵理子オーナーパティシエ、角屋菓子舗（掛川市）の熊切正美チーフ、玉華堂（磐田市）の鈴木良宣社長の三人はネット販売で自社商品を全国的に売り出した成果などを報告した。遠州夢倶楽部会員で酒と米を販売するあらかわ（浜松市中区）の荒川能

宏社長は「高齢化社会で店に買物に来れない人も増えている。昔からの配達制度を生かしたお年寄りの支援策も検討したらどうか」と提言した。

このほか、外国人労働者や原油高の高騰を受けた問題などを指摘する声もあった。

石川知事は一次産業から三次産業までもものづくり県としての力を強化する方針を強調した上で、「非常に中身の濃い話ばかり。すぐに解決できない問題も多いが、できる限りの努力をしていく」と応じた。